



# カジカの学君

Vol. 26

発行元 特定非営利活動法人 加治川ネット21

〒957-0345 新潟県新発田市小戸886-1 TEL0254-31-4111 FAX31-4088

ホームページ URL <http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/> E-mail [kjn21@ml.shibata.ne.jp](mailto:kjn21@ml.shibata.ne.jp)

会費振込先 郵便局振替口座 00500-5-35812 株式会社第四銀行 新発田東支店 普通口座1196959

## あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、新潟県年内におきましては、昨年7月の大洪水や10月の新潟県中越地震など、天災がとて多い年でした。被害に遭われたみなさまには、心よりお見舞い申し上げます。

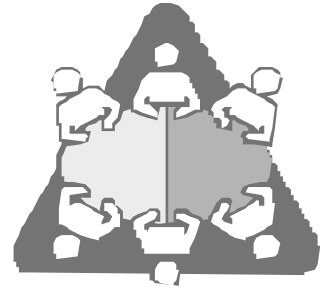
当会では、地域に根ざすNPO法人として、昨年も沢山の事業を行ってきました。環境啓発活動や動植物調査の他、新発田川をテーマにまちづくり活動などを行いましたが、活動内容が広がった反面、活動方針が定まらず、統一性がなかったのではないかと反省されます。しかしながら、新潟県などから受託された事業では、すべての事業で満足していただけたのではないのでしょうか。また、水土里ネット佐々木から受託された「佐々木地区環境プログラム」では、佐々木小学校の総合学習と連携し、佐々木地区の古太田川の未来に大きな夢を描く事が出来ました。これからも、みなさまの期待に応えられるよう頑張ります。

理事長 若 月 学

## 05年度 総会のご案内!!

新たな一年間の始まりです。みんなで楽しい組織にするために話し合ひましょう。  
まだ会員でない方も誘い合わせのうえ、ご参加ください。

- ・と き：05年 2月 5日(土)
- ・総 会：17:00 新発田市ボランティアセンター
- ・懇 親 会：18:30 本田屋食堂 (新発田駅前)  
住所：新発田市本町1-1-3 電話：0254-22-3873
- ・懇親会費：4,000円
- 申し込み：電話、FAX、Eメールにて事務局までお願いします。  
TEL 0254-31-4111 (江口)  
FAX 0254-31-4088  
Eメール：kjn21@ml.shibata.ne.jp



みなさんのあたたかい思いを手渡しました。

**義援金協力頂いた方**  
NPO法人加治川ネット21・秋田県仙平農村整備事務所・竹俣小学校職員一同・米倉小学校長小川弘実・(株)馬場工務店・エヌシーイー(株)・(有)みずほ園芸・若月建設(株)・NPO法人水環境ネット東北・福井県本願清水イトヨの里職員有志・五泉トゲソを守る会有志・石川県美川自然クラブ「はりんこ塾」有志・阿賀川・川の達人の会・五泉市立川東小学校4年生有志・天谷光浩(福井県大野市長)・福井県大野イトヨの会杉本敏憲・井伊和則・小柳繁・猪股富美子・渡辺利道・肥田野繁晴・濱田文武歯科医院・松浦幸三・池田茂子・和田秀男・亀山和子・佐藤通・小林俊之助・篠田令子・遠藤木綿子・相馬広治・若月学・藤田利昭・田代和吉・田中光義・米山 淳  
(敬称略・順不同)

**「地震ボランティア基金」**  
12月23日、みなさまより託して頂きました「新潟県中越地震義援金」160,000円を当会若月理事長よりNPO法人新潟NPO協会の金子洋二常任理事に手渡ししました。

## 新潟県中越地震：緊急シンポジウム 「がんばろう新潟～いま、私たちにできること」に参加して

12月12日の夜、新潟ユニゾンプラザで「がんばろう新潟～いま、私たちにできること」をテーマとしたシンポジウムがありました。これは、新潟県NPOサポートセンターなどが主催したもの。会場となった中研修室には100人以上が集まり、立ち見の人もあるほどでした。

第一部はパネルディスカッション。長岡市、川口町などの災害ボランティアセンターで活動する5人のパネリストが、活動状況や課題を次々に発表しました。



長岡の災害ボランティアセンターの笠井さんは、住宅に表示された赤、黄、緑の危険度判定で「黄」となった住宅に入室してよいのか悪いのかの判断が難しかった話や、本部は一箇所に止まり指示してほしいという意見もあったが、近くでないと見えてこないものもある、サテライトとして動くことも大切と、拠点を移しながら活動した話などを紹介しました。

川口町に入った川瀬さんは、三条の水害時にもボランティア活動の経験があったそうですが、川口町の場合はその経験を生かす前に、スムーズにボランティアを受け入れない地域性の壁にぶつかり、地域の信頼を得るまで活動できなかったこと、道路が寸断され被災地の状況が分からないため、バイクで調べてからでないと救援隊が送れなかったため、時間がかかったことなどを紹介しました。

他の3人の方の話も、一つ一つが頷けるもので、災害ボランティアの苦勞の一端を感じると同時に、「これから私たちにできること」をひとりひとりが考えていかなければと思いました。また「ニーズって何だろう」「何でもやってあげるのがボランティアなのか」という投げかけもあり、手を出さず静かに見守るのも、人によってはニーズを満たすことになる、生きる力を導き出すことにつながるという話には、災害時だけではなく、普段の私たちの活動にも通じることだと考えさせられました。



第二部は11のボランティア活動の紹介。障害者や外国人の安否確認や情報提供、チャリティライブ、シャンプーサービス、絵本の読み聞かせ、カウンセリングなど、本当にいろいろな活動があることを知り、そういった活動を自らの生活よりも優先して考えている皆さんに、頭の下がる思いでした。

最後にひとこと。12月半ばまでのボランティアの数は、約7万人にもなるそうです。しかし、その中で県内のボランティアの数は2万人しかいません。ほとんどは県外の方なのです。この実態をどう捉えますか。これから雪の季節を迎えます。「除雪のボランティアは雪に慣れている県内の人の手がどうしても必要」と主催者は訴えていました。

### 04年に加治川ネット21に入会されたみなさんをご紹介します。

#### ☆個人会員

藤岡 達也さん（上越市）  
神宮 寛さん（秋田県大潟村）  
小林 俊之助さん（新発田市）

佐藤 明 さん（新発田市）  
高澤 直美さん（鎌倉市）  
長谷川 一さん（新発田市）



#### ☆団体会員

エヌシーイー（株）さん（新潟市） （株）花安 新発田斎場さん（新発田市）

04年12月末現在 個人112名、団体29です

## 新発田広域環境フェア開催される

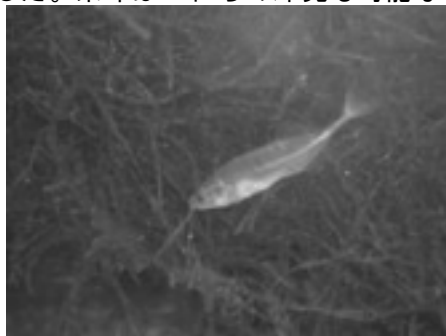
9月26日（日）、新発田市カルチャーセンターにおいて新発田広域事務組合主催の2004広域環境フェアが開催されました。

当会は3回目の出展で、前年に続き1階の一番広いスペースに、『加治川流域のいきもの大集合!!』ブースを設置しました。

ブースでは、活動紹介パネルと新発田市内の河川でとれる魚達を水槽に入れて紹介しました。メインの水槽は90cmタイプの大きなもので、そこに新発田市のイバラトミヨを入れました。やっぱり動くものがあると人目をひくのか、沢山の来場があり、特に沢山のタイリクバラタナゴやモツゴ、タモロコなどを入れた水槽が人気でした。

また、主催者が用意した「環境クイズ」の問題の中には、当会のブース内に解答が隠されていたのもあり、解答を目当てにイバラトミヨのことを尋ねてくる方も多くいました。

午後3時をまわり、片付け前に希望者にタナゴの無料配付を実施したところ、沢山の親子が並び、孫にやりたいからと並ぶ大人の方もいました。来年はこれらの即売も可能な事なのかもしれませんね。



生き物を展示する難しさもあり当日に準備するのは結構大変ですが、今後の展示参加の参考にしたいと思います。午後4時、盛況のうちに無事、終了することができました。準備からお手伝いをいただいた皆さん、お疲れ様でした。

## 加治川ネット21会員募集!!

加治川ネット21では、阿賀北地域をフィールドに自然環境の保全活動やまちづくり活動などを積極的に取り組んでいます。みなさんのいろいろな想いややってみたい事を教えてください。

あなたもNPO法人 加治川ネット21に参加して一緒に取り組んでみませんか？

### ☆活動内容

- (1) 環境の保全を図る活動
- (2) 文化の振興を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 社会教育の推進を図る活動



### ☆事業内容

- ① 環境保全に関する事業
- ② 自然環境の創造・復元に関する事業
- ③ 環境の啓発に関する事業
- ④ 地域情報の提供に関する事業
- ⑤ 文化・地域の交流を促進するための事業
- ⑥ 活動報告書やテキストなどの販売に関する事業
- ⑦ 調査・設計に関する事業
- ⑧ コンサルタントに関する事業
- ⑨ 人材の派遣に関する事業
- ⑩ その他この法人の目的を達成するために必要な事業



## 佐々木地区環境学習プログラム&佐々木小学校総合学習 ～みんなの夢を下絵にのせて～

10月26・27日、佐々木地区自然環境体験プログラム5回目ワークショップが佐々木小学校を会場に開催されました。今回は、「ホタルの舞う古太田川を」を合い言葉に、ワークショップを通して学んだことを3班に分かれてホタルも棲める環境と市民が憩える環境を工夫して下絵を描く作業です。

最初に主催者の佐々木土地改良ほ場推進委員長の前田さんから「将来のすてきな古太田川を描いてください」、当会若月理事長から「机上の空論でも夢を紙の上に乗せてください。」の挨拶がありました。



佐々木地区ワークショップ担当の植木さんからこれまでのおさらいと当日の作業の説明を受けた後、児童は各班ごとに教室、コンピューター室、ふれあいルームに分かれ、いままで学習したホタルについて話し合いました。今回は、古太田川を大きく変えることは難しいという判断から、今後始まるほ場整備事業で予定されている公園用地を土台にして絵を描く事になりました。子供達は植物や生き物、人々のふれあいなどにポイントをしぼり、川の大きさや深さ、水の流れや石についてまで事細かに「どれくらいが良いのかな？配置はどうしよう？」と、いろいろ話し合い各班で一枚の絵に仕上げていきました。

26日は、1時間のみと限られた時間しかなく、討議と下絵描きまでの作業になりました。

翌27日、前日の続きで、2限の授業を使い古太田川上流に計画されている公園の絵に子供たちは思ひの夢色を乗せた絵を描き、教室に戻り各班の発表が行われました。



## 佐々木小学校 ホタル乱舞する公園を実現するために

12月17日、新発田市下興野のJA北越後倉庫に3枚の絵が掲げられました。これは、佐々木小学校の6年生が行った自然環境学習（加治川ネットが指導。5回のワークショップなど実施）のまとめとして、古太田川の未来像を描いたものです。冬空の下、倉庫前には約40人が集まり、児童たちの学習発表を聞きました。

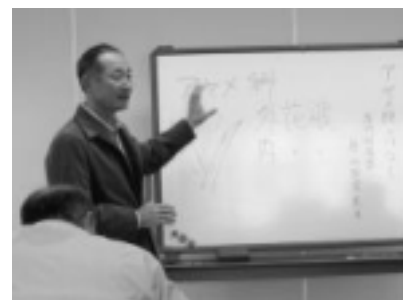
児童たちは3班に分かれ、ちょっと前までは佐々木地区に見る事の出来た「ホタルの復活」を夢みて、古太田川の最上流部に作られる古太田川のゾーニングや、この公園内で地域の人たちと市内の人々とが交流できる場をと、それぞれの班が描いた絵の前で、公園の未来像を発表しました。（受託事業：水土里ネット佐々木）



## ～新発田川を愛する会「アヤメ学習会」～ ＊いづれ菖蒲か杜若＊

11月14日（日）、新発田川を愛する会主催、加治川ネット21後援の『あやめ学習会～いづれ菖蒲か杜若～』が開催されました。

この講習会は、「“汚い川”のレッテルを貼られた新発田川をきれいにするため、現在の新発田川にも目を向けてもらいたい」と今年から新発田川にアヤメを植える活動を開始した『新発田川を愛する会』が、新潟県立植物園の片山芳宣さんを講師に、新発田の市花にもなっているアヤメについて、もっと詳しく知ろうと呼びかけて開催したものです。



### ☆菖蒲と花菖蒲と杜若の違い

『アヤメは水辺に咲く美しい花』という印象がありますが、実はこれは大きな間違いです。また、全国的に『アヤメ祭り』や『アヤメ園』で鑑賞される花の多くは、「ハナショウブ」の場合が多いようです。それでは、それぞれの違いについて紹介します。

| アヤメ                                                                                | ハナショウブ                                                                             | カキツバタ                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |
| ①花の色は紫まれに白<br>②花の模様が網目（文目）<br>③葉は細く白い粉を噴いた感じ<br>④乾燥地を好む                            | ⑤花の色は赤紫<br>⑥花びらの付け根が黄色い<br>⑦葉の脈が太くハッキリとした筋に見える<br>⑧湿地を好む                           | ⑨花の色は香紫<br>⑩花びらは長めで根本の色は白っぽい<br>⑪葉の幅は最も広い<br>⑫湿地を好む                                  |

注記：①、⑤、⑨は基本色。但し、現在では改良により多彩な色がある。ハナショウブ（花菖蒲）はノハナショウブ（野花菖蒲）の改良種

### ☆アヤメの名称の由来

アヤメの花の特徴を紹介しましたが、アヤメは外花被（一番外側の大きな花びら）の網目模様から『文目（あやめ）』と呼ばれているそうです。また、昔からアヤメとショウブが漢字を共有して混同されてきたのは、『端午の節句』を中国から日本に導入した際、里芋科のショウブ「白蒲」を「菖蒲」と間違えて記述したことに端を発しているそうです。

また、ショウブに似て美しい花の咲く草という意で名付けられたハナショウブを漢字名では「花菖蒲」と書くのだということでした。なるほど、とても面白いですね。

日頃目にしていた『アヤメ』は『ハナショウブ』だったかもしれません。来年『菖蒲』を愛するときには、花びらの網目（文目）模様や葉っぱの特徴、咲いている場所の状況（乾燥した土地か水辺か）などに注意しながら見てみてはいかがでしょうか？

# わーくしょっぷ **加治川の恵みに関する構想策定 WS** **人と自然が繋がる加治川を目指して**

「加治川の恵みに関する構想策定WS（ワークショップ）」は、加治川流域で活動する様々な個人や団体が集まり『加治川の恵み』を再発見しよう！と新発田地域振興局が企画し、平成14年度から始まった加治川の恵み事業の一環として行われたものです。WSは、平成14年・15年のWSで確認した加治川の恵み（資源）を守り、利活用していくための基本構想を策定するため、昨年の7月から12月までに5回開催されました。

加治川ネット21は「加治川の恵み推進委員会」のメンバーでもあり、今回のWSにも積極的に参加してきました。それでは、5回の構想策定WSを順を追って紹介していきたいと思います。

## 第1回WS 「みんなで加治川を再発見しよう！」

7月19日五十公野公園のサンワークしばたを会場に開催されました。参加者同士の交流と体験をととした検討を促進するため、グループに分かれて加治川を代表する『桜堤』や岡田の『天然プール』などを実際にみながら加治川を見つめ直しました。

その結果、①天然プールや治水公園などは親水性が高く、人に『近い川』であり、利水・治水利用が主で人々の生活からは『遠い川』でもある。②自然に生えるヤナギやヨシなどの人が手を加えずに『見守る自然』と人々が管理している桜や牧草などの『育てる自然』がある。③人々の思いの中にある『かつての加治川』と今ふれることの出来る『現在の加治川』という2つの顔を持っている。といった、加治川の2面性を見付けることが出来ました。



## 第2回WS 「加治川の恵みを楽しむ方法を考えよう！」

8月22日新発田市加チャセンターを会場に加治川に親しみ利活用するための具体策の検討が行われました。

今回はWSの前に地域振興局から「長堤十里加治川の桜みち整備計画」の概要が説明されました。

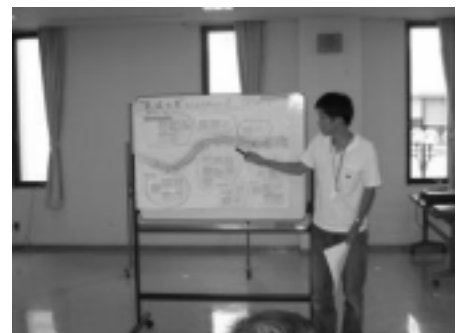


整備内容は、加治大橋下流JR羽越線との交差点から紫雲寺橋までの兩岸の管理用通路を散策路として整備していくもので、「整備後は歩行者やサイクリング利用者を優先させ、一般車両の進入を制限する予定だが、整備後の利用方法や整備の方針、車両進入の可否など、これからのWSで出た意見を参考に検討していきたい」とのことでした。

続くWSでは、①親水イベントについて②桜堤の活用方法について③高水敷の活用方法について④長堤十里加治川の桜みちの活用についての4グループに分かれて話し合いが行われました。

各グループごとにたくさんの意見がだされましたが、基本的には「今ある加治川の自然環境を大切にしていきたい」「加治川を知り、加治川を楽しむことが、今の加治川を守り育てていくことにつながると思う」といった内容が多かったように思います。

また、これまでの行政主導による一時的な集客を重視したイベントから、住民（主催者）自らが楽しみながら継続していけるようなイベントに移行し、最初は小さくても参加者がリピーターとなり、輪が広がっていくようなイベントを目指していく必要があるのではないか。現在、各自治体や加治川沿線で開催されているイベントが連携するだけでも流域間の交流が促進されるのではないか。など、イベントそのもののあり方に対する意見も多く出されていました。



要は、加治川に関わっているたくさんの人々が手を繋ぐことが、一番大切なのではないのでしょうか。

### 第3回 「加治川をきれいにする方法を考えよう！」

9月26日、新発田地域交流センターで加治川流域の環境と景観の保全に向けた具体策（クリーン作戦や動植物の保全など）の検討が行われました。今回は、WSに先立ち加治川水系の現状が説明されました。



また、加治川水系の自然環境における『希少動植物の現状』についての説明を加治川ネット21に依頼されたため、『水生動物』に関しては藤田理事が、『植物』に関しては植木理事が説明を行いました。

水性動物に関しては、サクラマスやサケの収穫高からみる加治川本流における自然環境の現状と絶滅危惧種のイバラトミヨが生息する支流における自然環境の現状について説明がありました。植物に関しては、上・中・下流における植物層の多様性と五十公野公園（五十公野山）の重要性が説明されました。

WSでは、①川遊びやクリーン作戦などで自然の豊かさや水質の良さを実感する：触れてきれい ② ゴミがなく、草が刈られた美しい景観を保つ：見てきれいという、2つのテーマが上げられました。

### 第4回 「桜の維持管理をみんなで体験してみよう！」

10月17日「桜の維持管理」がテーマの今回は、緑のアドバイザーで 加治川ネット21協力もある当会の田中理事が講師を務めました。

午前中は、加治川橋付近でクリーンワークと下草刈の作業を行ないました。実際に加治川の桜を見ながら、木の状態や病気の種類や対処の方法などについて解説がありました。また、加治川の桜の多くは痛んでおり、今まで以上にきちんと手入れを続けていかなければならないと説明がありました。



午後からは、新発田地域交流センターでWSを行ない「桜の維持管理の年間スケジュール」を作成しました。合わせて、「各種事業には、どうしたら多くの人に参加してもらえるか」「維持管理の資金はどのようにして集めるか」なども話し合いました。

桜の木を植えてしまえば花が咲く。そんな簡単なことではなく、みんなが手間をかけ、愛情をもって加治川の桜を育てていかなければならない。そのことを参加者全員で確認出来て、たいへん有意義な一日でした。

### 第5回 「加治川を誰が守り育てていけばいいのか考えよう！」

12月5日新発田市加治川センターで「今後加治川流域の市民がどのように連携していくのか」を議題にWSが行われました。今回が最終回でもあり、WSを行う前にこれまでのWSのまとめが行われました。その中で、コーディネーターの渡邊さんから加治川に関わるそれぞれの団体が連携を図るため、連携団体の各事業を総括する『（仮称）加治川の恵み連絡協議会』が必要ではないかとの提案がありました。これを受けて、一部の参加者から「連携を目的とした『総括』とは、情報の共有化を目的に情報の収集と発信を行い連携を促進することであり、それぞれに活動する団体を1つの大きな組織に纏めようとしなくて欲しい」との意見も出されました。



WSの結果、「将来的には民間へ移行するにしても、当面は事務局を新発田地域振興局内に置き、各団体同士の情報発信等を含めた緩い形での連携協議が望ましいのではないか」との意見が多く出されました。加治川ネット21でも、今回のWSをとおして知り合った各種団体や個人の皆さんとの連携を目指して、これからも情報の発信に心がけていきたいと思います。

# トゲウオがつなぐ北陸の地域連携「北陸交流会」

この事業は、「トゲウオの生息地は、豊かな自然が残り、地域の資源が豊富に存在する場所」という観点から、トゲウオをテーマとして活動する団体が連携することの必要性や可能性を探るため、10月31日、福井県大野市を会場に開催されました。

## ☆1日目の交流

朝8時半に新潟ふるさと村に集合した、加治川ネット21、五泉トゲソを守る会、中条イバラトミヨ・水芭蕉の会、阿賀川・川の達人の会、五泉市立川東小学校の児童の30名は、他己紹介（似顔絵付きの他人紹介）ゲームなどに興じながら、賑やかに石川県美川町へと向かいました。

石川県美川町はトミヨ生息地の南限で平成15年にトミヨが美川町の天然記念物に指定され、平成16年にはその生息地域が県の天然記念物

に指定されたそうです。前はりんこ塾長・中正さんと赤井さんから『はりんこ塾』の活動が紹介されたあと、お二人の案内で、自噴する湧水を横目に見ながら、トミヨの生息地『安産川（やすまるがわ）』と平成11年に完成した『トミヨ増殖池』へ向かいました。



石川県美川町：はりんこ塾



安産川：川底は土水路です

やすまるがわ

安産川には生活排水などが流入し、雨のせいもあって当日は少し濁っていましたが、バイカモがびっしりと生い茂った増殖池

には、コンコンと透明な水が湧き出していました。残念ながら、増殖池でトミヨの姿を見ることは出来ませんでした。その透明で豊富な湧き水からトミヨの存在を感じることが出来ました。

1日目は宿泊先である『扇屋』を会場に、全7団体（加治川ネット21、五泉トゲソを守る会、中条イバラトミヨ・水芭蕉の会、阿賀川・川の達人の



交流会場にて地震カンパのお願い

会、五泉市立川東小学校の児童、大野イトヨの会、美川自然人クラブ）が参加してのおいしい晚餐会で締めくくられました。

加治川ネット21から「10/23新潟県中越地震」義援金の申し出に対して会場の連携団体からあたたかいカンパ（約2万円）が寄せられました。

ありがとうございました。

## ☆2日目の交流

心配されたお天気も持ち直し、清々しい秋晴れの中で交流会の本番を迎えました。

大野イトヨの会の杉本敏憲会長と五泉トゲソを守る会の高橋荘三会長の挨拶が行われた後、『イトヨの里』森誠一館長へ、『子供トゲウオ大使』（五泉市川東小学校4年生児童）から五泉市教育長からの親書が手渡されました。引き続き、参加団体から活動状況や問題点、今後の課題などが発表されました。

休憩を挟んで子供トゲウオ大使の交流が行われ、五泉市川東小学校児童は、総合学習の成果やトゲソの保護活動への意気込みチューリップの替え歌して発表していました。



新発田での取組を発表

また、北陸地域連携に向けた可能性討論では、「活動の主体を市民団体が担うことの重要性」が謳われたものの、「地域環境の保全是スケール

が大きく市民団体のみでは限界があり、行政の支援も必要である」との意見も多く出されました。

また、大きな地域連携とともにそれぞれの地域で仲間を増やす活動も大切で、活動を次の世代へどう紡いでいくのかという課題においては、「子供たちに対する環境教育がその鍵を握っている。しかし、現時点では学校同士での交流は難しく、行政が支えていく必要がある。」といった討論もありました。



## 久保地区イバラトミヨ生息調査

11月14日（日）新発田市久保地区（旧豊浦町）で、イバラトミヨの生息実態調査が行われました。

今回の調査は、『新潟県下越地域の湧水地の生物現状調査』の一端を担っており、五泉トゲソを守る会の樋口さんと須藤さんも助っ人に加わって、総勢7名での調査となりました。

### 第1・第2調査地点『天辻川本流』

天辻川の久保橋から約20m下流に落差工があり、その上下流2地点で最初の調査が行われました。

天辻川本流は、川幅が4m程と広く、流速も早いことから調査予定地ではなかったのですが、水中に生い茂るバイカモに誘われて網を入れたところ、ホトケドジョウが捕獲され、急遽調査に踏み切ったものです。

上流側ではホトケドジョウ、ドジョウ、ウグイが捕獲され、下流側ではイバラトミヨも確認することが出来ました。

あんなに速い流れの中にイバラトミヨがいたなんて驚きです。きっと、水中に生い茂る水草のおかげですね。

### 第3調査地点『久保集落内の小水路』

天辻川本流（第1調査地点）のすぐ脇を流れている田んぼ脇の小水路で、当初から調査を予定していた場所です。

江浚いが終わり水草は殆どありませんでしたが、落葉の下や水路の底に隠れているイバラトミヨを多数捕獲することが出来ました。

まだまだイバラトミヨが棲める環境が残されているんだと「ほっ」としました。

### 第4調査地点『久保集落東端の小水路』

この水路の水源は湧水です。地域の方の話では、夏でも水が枯れることはないそうです。この水路も

江浚い後だったので、比較的水草が多く残っている場所で調査を行いました。

竹藪側から被さる植物が隠れ場所になっていたよう

で、とてもたくさんのイバラトミヨが捕まりました。

きっと水草がなくなった下流から、みんなで避難してきたのしょうね。

水草がない現状では断言出来ませんが、捕獲数から「ここが一番の生息地かもしれない」とのことでした。来春、新発田でイバラトミヨの営巣が確認できるかもしれません。今から楽しみです！

### 第5調査地点『小水路の水源』

前地点の調査後、水路の源流を見ようとみんなで水路を遡ったところ、水路底面の所々で水が湧いているのを確認することが出来ました。

また、最上流部では水路がなくなり、湧き出した水が寄って水路になる様子も見ることが出来ました。こんな風に少しずつ集まった水が、大きな流れになっていくのしょうね。

水源付近で網を入れたところイバラトミヨも捕まり、「イバラトミヨの新たな生息地の発見」と「湧水の確認」という2つの大きな成果をもって調査を終了しました。

今回の調査をとおして、加治川流域でのイバラトミヨの生息に大きな希望を持つことが出来ました。今後は六日町地区と久保地区、太斎地区のイバラトミヨの生息状況の把握に努めるとともに他地域へ調査範囲を拡大していく必要があると思われます。

イバラトミヨが生息している環境は素晴らしく、この環境を守っている地域の方々には素敵な人が多いですよ。次回は、みなさんも参加してみませんか？



## にいがた連携公開講座 水辺シンポジウム 「水辺の再生によるまちづくり」

12月4日、NPO法人新潟水辺の会主催「水辺シンポジウム」が開催され、新潟市の掘り割り再生について討論されました。加治川ネット21は、「新発田川」をとおして行っている活動などを紹介しながら、都市部における水辺の再生についてコメントを行いました。

また、今回の企画は、県立生涯学習推進センターと加治川村中央公民館を映像で結び、2つの会場で同時に討論を行うものでした。新潟市にある県立生涯学習推進センターには、コーディネートの新潟水辺の会の大熊孝会長、新潟水辺の会の上山世話人、九州大学大学院の島谷教授、新潟市長の篠田市長、通船川・栗の木ルネッサンスの星島さんなどのほか、100名ほどが集まりました。テレビ会議の受信会場となった加治川村中央公民館には、地元住民など13名が集まりました。



前半は、韓国ソウルでの清溪川（チョンゲチョン）の再生に向けた取り組みや、東京日本橋での高速道路地中化に向けた取り組みなどが紹介されました。

後半は、上山さんから他門川の掘り割り再生に向けた提言などが行われ、それぞれの発表に対し2つの会場から多数の質問が寄せられました。

篠田新潟市長さんからは、「現在、合併後の新潟市がどのような都市を目指していくのかを示すマニフェストの作成を行っています。その中で、新潟市の顔として、掘り割りの再生についても具体的な検討を行うことが出来ると思います」とコメントがありました。

このコメントに対し、五泉トゲソを守る会から「都市部での水辺再生についての取り組みも必要ですが、新潟市近郊には五泉のように農村や里山の環境が数多く残されています。しかし、その環境も全てが良好な状態で維持されているわけではありません。それらの環境を保全することによって、都市部の方々が、都市部にはない自然を気軽に楽しめるようにすることも必要ではないか」との発言もありました。

今回、新潟市の掘り割り再生についていろいろな意見が出されましたが、新発田市には新発田市街を流れる『新発田川』や佐々木地区の『古太田川』の他、農村部の小河川などたくさんの水辺が残されています。加治川ネット21では、これらの水辺の大切さを理解してもらえよう、地域の方々と一緒になって考えていきたいと思っています。

## 04年忘年会盛会に

12月4日、加治川ネット21の忘年会には、若月理事長を含む14名の会員が集まり、温かい鍋を囲みながら楽しく一年間の活動をふり返りました。

今年は、県新発田地域振興局や水土里ネット佐々木などからの受託事業に追われてしまったような気もいたしますが、来年は、親子で参加できる環境学習や会員向けの楽しい活動などにも力を入れていけたらいいなあと思っています。

1年間の活動お疲れ様でした。来年も楽しくいきましょう！

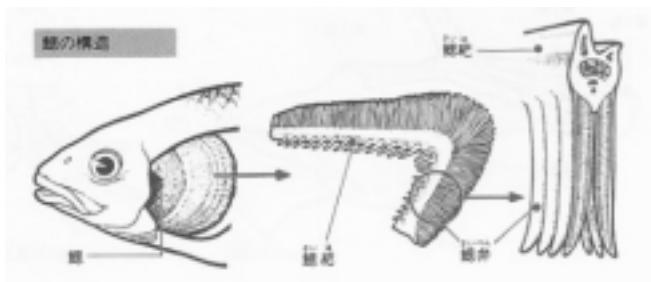


## 第10回 フナ類

藤田 利昭\*

“小鰯釣りしかの川～”などと童謡の歌詩にもなっているフナですが、コイと並んで日本人にはもっとも馴染み深い魚のひとつです。分布域も広く、溪流を除くあらゆる淡水域に生息しているため、生態や形状が非常に変異に富んでいます。日本産のフナはキンブナ、オオキンブナ、ギンブナ、ナガブナ、ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ(ヘラブナ)が知られていますが、すべて同種内の亜種とする説や、数種に分ける説など分類、学名も定説が無い状況です。(もっとも、人間がかってに分類しているだけですが…)

フナ類には、進化や環境適応を語るうえでも面白い特徴があります。生息する環境や好む餌により、餌を濾しとる鰓耙(サイハ)の数や腸の長さ、形が異なるのです。キンブナは比較的大型の水棲動物好むため、フナ類の中でさいはの数が最も少なく腸管は単純で短くなっています。反対にヘラブナは非常に小さい植物プランクトンを主食とするため、鰓耙数が増加し、腸管もフナ類で最も長くなっています。そのため、キンブナの体高は低く、ヘラブナの体高は高くなっています。まるで、日本人と西欧人の体型を比べているようです。また、ギンブナにはほとんどオスがいません。



フナ類は、このように種ごとに特徴があります。加治川水系の在来種(従来から生息している種)と考えられるキンブナ、ギンブナ、そして、近年、釣魚として人気のあるヘラブナが放流により繁殖しているので、この3種を紹介します。

また、観賞用の金魚は、野生のフナ類とはかなり異なった遺伝子組成をしているようです。大きくなったから、飼う気がなくなったからとむやみに放流するのは慎みましょう。

### 1. キンブナ

東日本を中心にギンブナとともに普通にみられ、おもな住みかは河川の下流域や、湖、池沼などで、底層を泳いでいます。食性は雑食ですが、水棲動物を好みます。



他のフナ類に比べ体高が低く、体長も15cmと小型です。体色は黄色が強く、腹びれや尻びれが濃黄色を帯びています。食べる餌のせいで鰓耙数(34前後)が他のフナ類に比べ少なく、腸管が短く単純なのが特徴です。雌雄比は1:1で5～6月に浅瀬の水草に卵を産みます。

近頃あまり食べないようですが、かつてはギンブナ等と区別せずに寒鰯と称し、十分泥を吐かせた後、すずめ焼きや甘露煮等にして冬季間の貴重な蛋白元にしていました。

また、西日本(新潟にも生息しています。)には、全長30cmになり、鰓耙数が42前後で体高のやや高いオオキンブナが生息しています。

### 2. ギンブナ

通常マブナと呼ばれ、全国各地に広く分布しています。体色は銀白色で体高はキンブナ、オオキンブナよりやや高く、全長30cmになります。食性は雑食ですが、キンブナより植物嗜好が強いため鰓耙数(48前後)が多く、腸管もやや長くなっています。

ギンブナにはほとんどオスがいませんが、それは染色体数が他のフナ類(100:2倍体)に比べ1.5倍の150ある3倍体であり、アブラムシやミジンコにみられるように雌性発生するためです。オスが必要ないなんてなんて悲しい魚でしょう。



雌性発生とはいっても発生開始時の刺激は必要で、コイやドジョウなど他の魚の精子を利用して卵割を開始します。ですから、閉鎖された水域では母親のコピーだらけ、クローン集団かもしれません。

### 3. ゲンゴロウブナ(ヘラブナ)

ゲンゴロウブナというよりヘラブナと呼ぶ方が一般的なようですが、琵琶湖原産で近年の釣ブームで全国的に放流され自然繁殖しています。新潟県でも盛んに放流され、加治川では内の倉

ダムに放流されています。



プランクトンや植物を主食とするため鰓耙数が 100 前後と著しく多く、腸も長いため体高が高いのが特徴です。食植性動物に大型種が多いように全長も 40cm 以上とフナ類のなかでは最も大型です。生態も他のフナ類と異なり中層近くを群れになって泳ぎ餌をとっています。

※) 技術士 (水産部門)、1級土木-7°管理士 (計画部門)

写真出典先：茨城県内水面水産試験場、(財)リバーフロント整備  
センター「川の生物図鑑」



## 加治川ネット21の活動

2004年10月 1日～ 12月31日

## 10月の事業

- 10月 2日 「生物多様性保全ネットワーク新潟」設立総会  
10月 7日 第3回 加治川の恵みワークショップ 参加  
10月 7日 水土里ネット佐々木打合せ  
10月 7日 10月定例会  
10月10日 内ノ倉ダム湖クリーン作戦（菖城5休ｽﾞｸﾗﾌﾞ）参加  
10月17日 第4回加治川の恵みワークショップ 参加  
10月20日 「日本農業新聞」活動記事掲載  
10月21日 新発田広域'04環境フェア反省会  
10月23日 「新潟日報」活動記事掲載  
10月23日 カジカの学君 25号編集委員会  
10月24日 「福島潟ラumlサル条約登録湿地に向けて」参加  
10月28日 佐々木地区第5回ワークショップ  
10月30日～31日 「トゲウオがつかうぐ北陸の地域連携」参加

#### 1.4. 目的の事業

- 11月 4日 11月定例会  
11月 6日 カジカの学君 25号発行  
11月 7日 五泉トゲンを守る会「湧き水小屋」完成式出席

- 11月 8日 水土里ネット佐々木、佐々木小学校「総合学習打合せ」
- 11月13日 五泉トゲソを守る会「トゲソ生息調査」
- 11月14日 「アヤメとカキツバタの違い」学習会 開催
- 11月14日 太歳地区イバラトミヨ生息調査
- 11月15日 新発田市立猿橋小学校
- 11月21日 「新発田市まちづくり活動支援事業」中間発表会
- 12月の事業**
- 12月 2日 12月定例会
- 12月 4日 水辺シンポジウム「水の再生によるまちづくり」パネラー
- 12月 4日 〇4忘年会開催
- 12月 5日 第5回加治川の恵みワークショップ参加
- 12月11日 加治川ネット21専門部会 開催
- 12月12日 緊急シンポジウム がんばろう！新潟 参加
- 12月16日 「水辺から見た新発田の自然環境」講演会：講師
- 12月17日 佐々木地区ワークショップ発表会（看板掲示）
- 12月23日 「新潟県中越地震ボランティア基金」を手渡す
- 12月26日 加治川ネット21理事会
- 12月28日 加治川ネット会報26号発送（※抜粋です）

(※抜粋です)

## 編集後記

昨年、新潟県では7月13日の刈谷田川の洪水。10月23日の中越地方を震源とした地震など災害の多い年を過ごしている方々も多いことと思います。心よりお見舞い申し上げます。

さて当会でも10月の地震直後から取組を開始した『新潟県中越地震の義援金』の取組に多くの方々からご協力をいただきました。ありがとうございます。

昨年は、NPO法人1年生として、慣れない申告書を書いたりバタバタした年明けでしたが、ふり返ると文化庁事業・技術庁事業と事業担当を分けた事で今まで以上にいろいろなジャンルの方々にご助言をいただけるようになりました。

今年も新たなチャレンジが始まります。みなさまにはいろいろなとお世話になると思いますが、よろしくお願いたします。

写真協力

報告文庫

会報編集委員会

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 遠藤 | 植木 | 若月 | 若月 | 若月 | 佐藤 | 遠藤 | 篠田 | 相馬 |
| 木綿 | 拓  | 学  | 安  | 学  | 俊  | 木綿 | 令  | 広  |
| 子也 |    | 明  |    | 利  | 洋  | 子  | 子  | 治  |
| さん | さん | さん | さん | さん | さん | さん | さん | さん |